

## 平成 20 年度第 1 回医学教育 FD/IT 活用研究委員会 概要

- I. 日時 : 平成 20 年 6 月 9 日 (月) 17:00-19:30
- II. 場所 : 私学会館 アルカディア市ヶ谷 3F 会議室
- III. 出席者 : 内山委員長、野上委員、鈴木委員、高松委員、渡辺委員 (記録)  
井端事務局長、森下主幹、恩田氏

### IV. 議事概要

#### 1. 本年度の活動について

- (1) 「中央教育審議会 審議のまとめ」の 5 項目の「大学の取組み (配布資料 1)」にもとづいて、学系・分野共通の学士過程における「教育の質の向上」に向けての取組みのアウトライン、OECD による高等教育の「学習成果の評価」フィージビリティ・スタディ等の構想があることが紹介された。
- (2) 医歯系については、客観性・標準制を備えた試験の実施等については他分野に先駆けて実施されているが、学生の学習到達度の的確な把握が重要な事、また、全学系を通じて目標達成にあたっては国が強制するのではなく、大学の理念・実情に合わせて、達成に向けての手法は多様であるべき点が重要であるとの指摘があった。
- (3) これらの事から、教育の質の向上には、教員の教育力の把握とその向上・改善が重要であること、そのための方策として「学生の学習到達度を測るための手法 (例えばポートフォリオ)」に加え、教員の教育力の把握とその向上・改善を目的としたティーチングポートフォリオの導入、およびその成果を活用した FD について検討することの必要性が示された。
- (4) さらに、大学教員として重要な点が、まず「学識 (スカラシップ)」そして「態度 (熱意)」、「技術 (授業設計等)」、そして「実践力」であり、特に実践力については、教員が社会において各自の学識をどのように社会への貢献に活かしているかを示すことで学生にインパクトを与え、学習のモチベーションを向上させ得ることが説明され、本年度は教育ポートフォリオを研究することとなった。

#### 2. 医学部の教育ポートフォリオについて

各委員と事務局でポートフォリオを中心として現状の医学教育の現状と問題点に関するフリートーキングが行われ、主に以下の事項について討議した。

- ① 各委員より、現状における教員の客観評価およびそのフィードバックの体制についての各大学の取組みが紹介された。出席委員の所属大学のほとんどで、学生による教員評価および教員の教育力評価が試みられはじめていること、およびそれに関連するワークショップ等が FD の一環として開催されている事が明らかとなった。たし、教員相互のピアレビューによる授業評価、またその結果にもとづく職位の昇降格や任期更

新の可否決定に進みつつある大学から、教員個人へのフィードバックによる自己啓発資料としての提供として利用している大学まで、その目的（目論み）・レベルは多様であった。

② ティーチングポートフォリオは、教員評価のツールとして利用可能な点から、単に「大学が教員を評価するため」のものに陥りやすい恐れがあることについての懸念がある事から、この点について検討した。その結果、ティーチングポートフォリオは『自らの講義・授業等を振り返り、自らの今後の授業改善に資するためのもの、あるいは当人が気づき難い問題点を気づき易くするために活用する、それによってFD推進のためのツールとして活用するのが効果的かつ適切な方策と言える』という点で、委員の意見がほぼ一致した。また、事務局長より、米国ではティーチングポートフォリオに克明に記録された内容が、その教員の教育能力を具体的に示す実践サンプル（証拠）として重視されている、また、歯学教育FD/IT活用研究委員会の資料（配布資料）にもとづいて、医学分野においても、ポートフォリオの評価を重視している英国に加えて、米国においてもMCQの欠点を埋めOSCEを補完する評価手法として導入される動きがある旨の説明があった。

③ 教育者の育成については、その全体像としてのあるべき（あって欲しい）姿を示す事で到達目標（ゴール）を具体的に提示する事ができれば良いが、これは容易でない。また、人間を測る尺度もない。したがって、ティーチングポートフォリオは教員の自己の「振り返り」による授業改善・教育力向上を第一義の目的とし「伸びた時に褒めてあげる。ダメな時には（具体的事例にもとづいて）自己の気づきを支援+まわりからやんわり指摘」のように、教員のモチベーションを維持・強化させながら教育能力を向上させる方策として用いるのが望ましいのではないだろうか？という点で、出席委員のおおまかなコンセンサスが醸成された。

### 3. 今後の活動について

① ポートフォリオについては、その有用性が強く示唆され、今後進めてゆく諸方策の幹の部分になると予測される点から、委員のポートフォリオについての知識を向上させるとともに具体的プランの立案に資する目的で、次回の委員会において、この方面に詳しい専門家の話を伺う事となった。また、可能であれば、歯学、薬学分野のFD/IT活用研究委員会等と合同・連携して推進する事も考慮し、専門家の講演会を共催する事も考慮することとなった。講師の候補として昭和大(歯)向井先生(学生のポートフォリオ)、鈴木先生(千葉大特任教授：ティーチングポートフォリオ等)のお二方の名前が挙がり、昭和大学鈴木委員を窓口として交渉・調整に当たっていただく事となった。

② 医学生の情報関係の技術については基本的情報リテラシー（コアカリキュラムに含有されている）に加えて、電子カルテをはじめとする医療の高度情報化への対応、および情報を自ら処理し判断してゆく情報のインテリジェンスとしての活用が、今後、ますます重要となると予測され、この点についても検討を進めて行くこととなった。

③ 統合化されたカリキュラムが導入されつつあるが、統合的教育を有効に活用して、コアカリキュラムに各大学の特徴を活かしてさらに独自・高度な部分を加味し、金太郎飴のような医療人育成の弊害が起こらないよう、諸外国の医療レベルに遅れることのないようにしなければならない。そのための方策についても検討を続けてゆく必要性が示された。

④ 事務局より、平成 19 年度教育白書の医療系大学教員へのアンケートの結果から、ほとんどの教員が、学生の動機付け・意欲に問題を感じており、また、4 割が授業設計（シナリオ・授業のデザイン）に、同じく 4 割が関連科目との連携体制に問題を感じている旨の指摘があった。また、今後どう改善すべきかについて、8 割の教員が学習意欲を高める授業の設計、7 割が授業中に学生の反応を見ながら状況に則した授業の実施、を挙げている事が報告された。

このように、多くの教員の需要がある事から、これらの点について FD の一環として素材・部品となる技術・アイテムを提供し、教員が自分の必要に応じてアラカルトで選べる体制を作ることで、多数の教員を抱き込んだ体制での教育改善の推進が可能となり得る点に留意して、今後の方策を進めて行くのが望ましいとの見解が示された。

#### 4. その他

次回委員会は 9 月 8 日（月：第一候補）または 9 月 20 日（土：第 2 候補）の開催を予定（主な内容：ポートフォリオの勉強会を予定）。

宿題：なし。